## 4/13のご報告

4/11よりたくさんの皆様からご質問・ご意見をいただきありがとうございます。

また、ご心配をおかけしてしまい申し訳ございません。

本日は、ご質問の多かった第7期の活動内容はどうなっていますか?にお答えしたく、NPO法人として前期の横浜市に報告している「事業報告書」に基づきご報告させていただきます。

この「事業報告書」は内閣府のポータルサイトに掲載されているものです。

1.地球環境改善への取り組み事業

・内容

(1) ゴミとして焼却処分されているペットボトルなどのキャップを収集し、再資源として活用することでCO2の発生を抑制し、地球環境の改善に寄与する。

(2) 環境教育を企画立案し実施する。

・支出額

5,441,617円

2.障がい者支援事業

・内容

ペットボトルキャップのリサイクルを通じて、安定的な障がい者雇用創出を実現すると共に、障がい者アーティストの発掘・支援活動を行う。

・支出額

19,068,064円

※第7期エコキャップ売却金の、請求総額は約31,000,000円です。

尚、約19,000,000円の未収金があります。

## エコキャップご提供者様へ

日頃よりエコキャップ運動に対し、ご協力頂わりありがとうございます。

この度はエコキャップをご提供されていてご提供者様、回収してくださっている回収業者の方々、その他エコキャップにご関心をいただいている方々にご心配をおかけして申し訳ありません。

当協会において前事業年度に限り、世界の子どもたちにワクチンを日本委員会に寄付が遅り、結果的に皆様のエコキャップがワクチンにならなかったこと、またそれをご報告しなかったことを深くお詫び申し上げます。

当協会はポリオの世界的根絶に協力すべく２０１３年度まで、皆様が提供下さったエコキャップの売却益の多くを『世界の子どもたちにワクチンを日本委員会』に寄付をさせていただいておりました。

お陰さまを持ちましてポリオの撲滅が９９％達成されております。

そこで、当協会は皆様からご提供頂いたエコキャップを次にどの様な方法で社会貢献させていけるのか考えました。この段階で皆様に良い道の方向転換を図った事実をご連絡しなかったことが今回の誤解を招いてしまったと反省しております。

エコキャップは、リサイクル運動として発展して参りましたが、一方でエコキャップのご提供方法について、地域に根差した受け入れ体制の整備が現年の課題となっておりました。また、エコキャップ再生プラスチック原料の用途が拡大していく中で、更なる品質の向上が求められるようになって参りました。

この課題に対して、昨年度は障がい者施設との連携を構築し、キャップリサイクルにおける重要な作業工程を、障がいをお持ちの方々にご担当いただくことで雇用の創出に繋がる「エコステーション構想」に取り組みました。この取り組みの実現によって、キャップリサイクルの更なる推進を図り、社会貢献活動を拡大していく計画を考えております。

もうひとつの柱と考えておりますのは国際支援・ワクチン支援団体への寄付です。

途上国が必要としている医療支援やワクチンの支援を通じ社会貢献していきたいと思います。

また先に述べました通り、ポリオは全世界で９９％減少しておりますが、未だ根絶にまで至っておりません。ポリオ根絶を目指しこれに関しましては「国際ロータリー」へ寄付を行って行きたいと思います。

この他にも、エコキャップで得た売却益は、国内外にこだわらず皆様に納得いただける使い道を考えていきたいと思います。

これからも皆様からご提供いただいたエコキャップとあたたかな思いを大切に運営していきたいと思いますので、変わらないご支援の程お願い申し上げます。

特定非営利活動法人　エコキャップ推進協会

## エコキャップご提供者様へ

日頃よりエコキャップ運動にご協力いただき、まことにありがとうございます。

エコキャップ推進協会は2007年の設立より、「地球に愛を　子どもに愛を」という理念の下、市民の皆様にご提供いただいたキャップの売却金をもって、ワクチン代の寄付を通じた感染症対策活動をはじめ、子どもたちへの環境教育・啓発活動や、障がいをお持ちの方々の自立支援・雇用創出活動を実施しております。また、東日本大震災の折には、緊急措置として義援金の寄付を実施させていただきました。

このうち、感染症対策活動につきましては認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会のお考えに賛同し、皆様ご存知の通りこれまで継続的に寄付活動を行ってまいりました。

さて、当協会は前事業年度に限り、障がい者の雇用創出・自立支援活動を集中的に展開いたしました。

皆様のご理解とご支援をいただき、エコキャップ運動は全国的な民間主導型のリサイクル運動として発展して参りましたが、一方でエコキャップのご提供方法について、地域に根差した受け入れ体制の整備が競年の課題となっておりました。また、エコキャップ再生プラスチック原料の用途が拡大していく中で、更なる品質の向上が求められるようになってまりました。

この課題に対して、エコキャップ推進協会は各地域の障がい者施設との連携を構築し、キャップリサイクルにおける重要な作業工程を、障がいをお持ちの方々にご担当いただくことで雇用の創出に繋がる「エコステーション構想」に取り組んでおります。この取り組みの実現によって、キャップリサイクルの更なる推進を図り、世界の子どもたちの感染症対策を主軸とした社会貢献活動を拡大していく計画となっています。

エコキャップ推進協会はこれまで同様、ワクチン支援をはじめとする感染症対策活動を社会貢献活動の主軸として、ペットボトルキャップの分別回収・リサイクル促進に努めてまいります。中核となりますワクチン支援につきましては、目まぐるしく変わり続ける環境変化に適合した最善の方策を検討して実行してまいります。皆様の変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人　エコキャップ推進協会

理事長　矢部　信司